

公益財団法人不老会会員の皆様へ

当講座では、下記の医学系研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	眼窩骨折における、眼窩骨壁への圧変化の計測と解析、シミュレーションモデルの作成
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原 祥裕
担当科等	眼形成・眼窩・涙道外科
研究責任者	助教 河野伸二郎
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	【非該当】
研究の意義・目的	<p>眼窩骨折は眼窩骨の発育、患者の年齢によって好発部位が異なることが確認されています。しかし実際の骨折の発症メカニズムにおいて、眼窩の解剖学構造に基づく、眼窩壁に対する圧への変化を解析した研究はまだありません。</p> <p>3Dプリンター技術、御献体を用いて、眼窩骨折患者の眼窩骨壁への圧変化を計測して解析し、それによりコンピューター上でシミュレーションモデルを作成することで、眼窩骨折の発症メカニズムの解明につながります。</p>
対象となる患者さん	2020年12月1日（倫理審査承認日）から2023年3月31日までに医学教育に使用される御献体
研究の方法	3Dプリンター技術、御献体、コンピュータシミュレーションを用いて、眼窩骨壁への圧変化を解析し骨折のメカニズムを解明します。患者のCTデータを用いて3Dモデルを構築し、3Dプリントおよびシミュレーションに活用します。3Dプリンターにより出力された模型と圧力計を用いて、押し込み試験などの力学的な試験を行い、眼窩骨壁に加わる圧力を評価します。同時に、3Dモデルシミュレーションにより、眼窩内の詳細な力学解析を行います。また、御献体から採取する眼窩内組織、眼窩骨に対しても、引張試験などの力学的な試験を行い、組織の力学特性を明らかにします。得られた結果を比較し、統合することで、眼窩骨折のメカニズムを明らかにします。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2025年3月31日
研究に用いる試料・	試料：御献体

情報	情報：年齢・性別・献体登録時の情報
外部への試料・情報の提供	【なし】
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2024年3月31日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。ただし、試料・情報が個人を識別できる場合のみ対応可能です。
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：河野伸二郎 電話 0561-62-3311（内線 12314）